

2年生立志式 素晴らしい式でした

3月11日に、2年生が立志式を行いました。授業参観を兼ね、多くの保護者の方に参加いただきました。これまで、いろいろな立志式を経験してきましたが、今回のような立志式は初めてでした。

まず、実行委員会が立ち上がり、生徒諸君が中心となって計画・運営をやってくれたこと。保護者との対話「どんな大人になりたいか」や合唱「青葉のうた」など、これからに向けた**2年生の強いエネルギー**を感じました。新3年生の今後の活躍が楽しみです！



修了式 1年間お世話になりました

本日、令和7年度の修了式を行いました。

まず、1年生、2年生の代表による振り返り。力強い内容に**感心すると共に心強く**思いました。二人の振り返りは、この後紹介します。

私からは、以下の3点を話しました。

- 高い志を持ち、**さらに挑戦**を続けてほしい
- 挑戦を認め、**失敗しても応援し合う集団**であり続けてほしい
- 益々**気の利いた附中生**を目指してほしい

最後の校歌合唱では、学校指揮者と伴奏者の紹介がありました。これから、附中の響きをリードしてくれます。よろしくお祈いします！

指揮者：井本麻友さん

伴奏者：岩澤龍太郎くん

【1年4組 池田侑世】

今日は生徒会執行部を代表して、今年度の生徒会活動を振り返るとともに、先日発表した生徒会目標「輝跡」についてお話ししたいと思います。みなさん、生徒会目標「輝跡」の意味は覚えていますか？

一人一人の努力や挑戦という輝きが響き合い、その積み重ねが学校全体の成長に繋がって跡を残す、という意味を込めて輝跡という目標を掲げました。

しかし、この目標はすぐに決まったわけではなく、何度も話し合いを重ねて決まりました。

まずわたしたちは「どんな学校を目指したいか」ということを一番初めに話し合いました。附属中のいいところはなにか、何をすればもっと良くなるのか。そうしたことを話していく中で、附属中生の良さに、改めて気づきました。

それは、「行事に本気で取り組む姿」です。

例えば体育大会では、勝利を目指して、全力で競技に臨む姿、自分の競技だけでなく、他学年の競技も自分の団の仲間を大きな声で応援する姿がたくさん見られました。自分の競技でなくても団の一員として全力で臨む姿が印象的な行事でした。

合唱コンクールでは、本番前に円陣を組んだり、他クラスの合唱を聞きながら、「負けないぞ」という雰囲気自然と生まれているように感じました。

みなさんは、体育大会、合唱コンクールなどの行事でどんな場面が心に残りましたか？きっとそれぞれに思い出の場面があると思います、そしてその思い出の中には誰かの姿を見て、自分の行動、心が動いた瞬間がたくさんあるのではないのでしょうか。

附属中には、行事などに全力で取り組むことができる、そして周りの頑張りを、行動の原動力にすることができる、そんな良さがあると感じました。まさに響きあいです。

これらの生徒会活動は、先生方、保護者様方の支えがあり、実行委員の行事の準備や運営、総代の各クラスへの呼びかけなど、多くの人の努力があって成り立っています。

改めて振り返ると、附中には、誰かの姿を見て自分の行動に繋げる空気があ

ります。これは附中のとても大きな良さだと思います。だからこそ来年度は、その雰囲気を行事だけでなく日常の中にも広げて行きたいと考えています。

例えば、授業中の発表をしっかりと聞いて考えたり、係や課活動など、お互いで支え合ったりして日常的に周りの輝きに目を向けるようにして行けば、その雰囲気はきっと広がります。

私は来年度、生徒会三役としてみんなの努力や挑戦のようすが見えるようにする企画を行っていきたいと思います。

また、私自信も、授業中など自分の考えに新しい視点を加えられないか他の人の発表を意識的に聞いたり、もっと周りの挑戦などに目を向けて成長に繋がられる年にしたいと思います。

【2年3組 川原由衣】

私のこの一年間は、一言で言いますと「濃い」一年だったと思います。二年生の後期、生徒会議長として人前で話す立場になり、これまで経験したことのない場面に沢山向き合うようになりました。

皆さんには議長という立場がどのようにみえていたのでしょうか？議長という立場は、皆さんから見ると、人前で堂々と話している凄い人のように見えていたかもしれませんが。少なくとも、すこし前まで私はそう思っていました。しかし正直に言うと、私自身は「強い人間」ではないです。むしろ、かなり緊張するタイプです。いまこの瞬間もだいぶ緊張しています。

議長になって数ヶ月、周りの人の凄さに圧倒され、緊張もしましたし、うまくできるか不安になることも多くありました。だからこそ、少しでも失敗しないよう、事前準備を何度も重ねることもありました。しかし予想外のことはよく有りますし、失敗したなと感じる出来事も多いです。

そして今も、これまで見てきた先輩方の「議長」の姿を遠く遠く感じ、私もまだまだ未熟者だなと感じております。

そうした経験の中で、私は「議長とはどんな存在なのか」「今の自分には何が足りないのか」をよく考えるようになりました。私の思う「議長」とは「話し合いを整える役」です。中立な立場で、皆が安心して意見を出せる環境を作ること。数々の経験を通して、それが議長の役割だと結論付きました。

そのためには、議長には「一貫性」と「柔軟さ」の両方が必要だと感じました。議題や話し合いの目的を守る一貫性と、その場の状況や仲間の意見に耳を

傾ける柔軟さ。その2つをしっかりと持ちバランスをとる事が、議長として大切な力だと私は考えます。

そのことを強く感じた出来事の1つが生徒総会です。

皆さん覚えていますでしょうか？11月に行った、生徒総会です。あの場では、生徒会三役と生徒側、という対立構造が生まれてしまいました。正直、あの時はかなり焦りました。

しかし今思えば、あの対立は決して悪いものではなかった気がします。逆に「理想の生徒会」の姿ではないか？とも思えます。考えてみてください。皆が「自分の学校なんかどうでもいい」のならそもそも意見のぶつかり合いも起こらないのではないのでしょうか？あの場で生まれた対立では、「自分たちも生徒会の一員だ」という主体的な気持ちが「対立」という望ましくない方向に走ってしまったのだと考えています。

生徒会は、500人の生徒からなる1つの「組織」です。組織って言われるとすこし大袈裟に聞こえますが、私はそう捉えています。

私にとって組織とは「異なる存在が補い合うことで成り立つもの」で。人はどこかしら欠点があり、1人でやっていける完璧な人間はいないですよ？そのため「学校を良くする」という大きなことも1人ではできません。だからこそ、自分以外の違う存在と共に支え合ってやっていくのでしょうか。それが「組織」だと「生徒会」だと私は思っています。

少し例え話をさせてください。組織の成長を植物に例えるなら、共感や支持は「水」であり、批判は「肥料」です。肥料はあげすぎは良くないですが、やはり植物には必要なものです。

しかしそこにはまず、組織の一員である皆さんという「日光」がなければ、植物は育ちません。だから私は、生徒総会や全校国語で投げられる率直な意見を、とても嬉しく思っています。意見があればあるほど良いのです。

この一年、特に議長として過ごした中で、私は多くの弱さや未熟さを感じました。その中で「人が集まり意見を出し合い協力し合い、「組織」が少しずつ成長していく」ということの大切さを学ぶ事ができました。

これからも、十人十色、それぞれ違う私たちが支え合いながら、植物を育てるように学校を作っていく。そんな附中であってほしいと願っています。

そして、その一員として私ももっともっと頑張っていきたいと思います。

皆さん、来年度も輝いた跡を残せるよう、来年度も響きあっていきましょーう！